

「Japanaroo」

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

シドニーでは、10月11日に約3か月半のロックダウンが終わり、お祝いムードが広がりました。街は賑わいを取り戻しています。NSW 州内ではワクチン完全接種率が80%を超え、1日当たりコロナ新規感染者数は一時期の1,500人以上から300人程度まで下がりました。11月1日からは、豪州人・永住者とその家族はワクチン完全接種済であれば入国時の隔離措置と人数制限が一切なくなります。日本とのビジネスマンや観光客の往来再開もようやく視野に入ってきました。

コロナ中から再開に向けて、日豪関係団体・企業が官民連携で立ち上げた新たな取組が「Japanaroo」です。昨年12月、シドニーで毎年恒例の「祭りジャパンフェスティバル」がコロナで中止となる閉塞感の中で、様々な団体・企業が以前から個別に行っている日本文化・ビジネス関連行事を同じ時期に集中開催する構想が生まれました。豪州らしい独自の名称が良いとの意見が出されて「Japanaroo」が採択されました。

コンセプトも具体化しました。第一に、豪州が推進する多文化主義の一翼を日本が担い、日本食や日本文化を通じて豪州の人々の生活を一層楽しく豊かなものにする。第二に、豪州の雇用創出とビジネス・イノベーションに日本が自らの強みを生かして貢献し、日本と豪州がともに発展すること。第三に、これらの価値を実現するために、日豪間の交流を通じて信頼関係を深化させること。

8月20日～29日の「Japanaroo 2021」開催に向けて、5月には行事開催団体の公募を始め、対面・オンラインあわせて50以上の行事が集まりました。ロゴはシドニー在住の日本人・豪州人アーティストが共同制作し、キャッチコピーは「すぐそこにある日本(Japan at your doorstep)」に決まりました。NSW州首相と駐豪州日本国大使がメッセージを寄せ、日系コミュニティ紙・日豪プレス の Japanaroo 特集号に掲載されました。ANA と JAL の協力で、日本行き往復航空券が当たる賞品キャンペーンも実現しました。



[ケンドーン・日本特別展, Spring fish and Fuji, 1993](#)



[Japanaroo チャリティランの参加賞](#)



[NSW 州立美術館所蔵カンガルー像](#)

[circa 1900, Izumi Seijo, Japan \(1865 - 1937\)](#)

しかし、6月にシドニーでデルタ株の感染が広がり、ロックダウンに入ってしまいました。開催期間を10月2日までに延長しましたが、感染は一向に収まる気配を見せません。対面行事は中止・延期やオンライン行事への組替となり、全行事をオンライン行事に移行しました。開会コンサートは12月に延期され、代わりに開会オンライン行事「Japanaroo Opening Night」が急遽企画されました。

結果は1万人(ダブルカウントなしの unique users)がアクセスする大盛況に終わりました。開会行事や大使講演会、日本研究シンポジウムなどには数百人が参加し、日本の蔵元と豪州を結んでの燗酒の利き酒会、日本がテーマのチャリティラン、当地在住の画家ケン・ドーン氏の日本展もオンラインで開催されました。アクセス数上位3位は、バーチャル日本ツアーなどいずれも観光関連で、コロナ後の訪日旅行拡大を予感させるものでした。

そして、12月3日～19日には、ロックダウンで延期された対面行事を中心に「Japanaroo +」を開催する運びとなりました。既に、市内中心部のタウンホールでの Japan Expo や日豪競演コンサート、多くの日本人が住むチャッツウッドでの祭りジャパンフェスティバル、王立植物園での生け花展、ブルーマウンテンズでのお茶会、NSW 州立美術館での日本美術講演会、名古屋・福岡・沖縄の地方料理フェアや京都の工芸品フェアなどが予定されており、その他の行事も企画中です。

今回、日豪・官民連携で Japanaroo の準備と運営に携わって感じたことは、日本人と豪州人、官と民、そして様々な団体・企業が自らの視点や強みを持ち寄って、日豪の相互理解と交流の深化と発展という同じ目的に向かってベクトルと力を合わせることの大切さです。目的と情熱を共有する場をつくり、継続することで、相互の協力が生まれ、広がっていきます。共通の成功体験から信頼が生まれ、更なる成果につながります。幅広い日豪関係団体・企業のご尽力で Japanaroo の枠組が立ち上がり、ロックダウンを乗り越えて第一歩を踏み出すことができました。心から感謝しています。



[Japanaroo 2021 総括報告](#)

話は変わりますが、このワシントン DC 開発フォーラムは、立ち上げからちょうど 20 周年になります。2001 年 9 月に「ODA 改革ランチ」として昼食勉強会 (BBL) が始まり、2002 年 2 月に来訪した大野泉政策研究大学院大学 (GRIPS) 教授との意見交換会を機に、GRIPS 開発フォーラムと連携する形で翌 3 月に「ワシントン DC 開発フォーラム」に改称されました。

私は幹事の一員としてフォーラムの立ち上げに関わり、2003 年にはワシントン DC を離任しましたが、その後も今日まで 20 年にわたり本フォーラムが継続・発展し、嬉しく思っています。20 年前に毎回の勉強会で作成した議事録は今も掲載されており、改めて読んで当時の熱気を懐かしく思い出しました。皆で考えた「目の前にある問題に対して一人一人が自ら考え、具体的な行動を起こしていくための情報・意見交換の場を提供する」「様々な途上国開発支援の関係者が、組織や場所の制約を超えて情報と知見、情熱と気概を共有し深化させる」とのミッションも、今日まで引き継がれています。

このようなネットワークやプラットフォームの最大の財産と成果は、そこに集う人たちです。このような場で出会い、学び、自分の可能性を見出し、情熱と気概を共有し深化することで、私たち自身がより強くなり、お互いの力を使いながら世界を良い方向に変えていけるのだと思います。私たち一人一人が大きな目的を共有してベクトルを合わせ、相互に学び力を発揮することを通じて、ともに途上国の開発を後押しし、日豪関係を深化させて、自己実現しながら世界に幸せを広げていきましょう！

【本記事の掲載先】

ワシントン DC 開発フォーラム： <http://www.devforum.jp/?p=2132>

【Japanaroo 関連ウェブサイト】

Japanaroo ウェブサイト： <https://japanaroo.com/>

Facebook： www.facebook.com/Japanaroo

Instagram： www.instagram.com/japanaroo/

Japanaroo について： www.sydney.au.emb-japan.go.jp/files/100226731.pdf

Japanaroo 2021 総括報告： www.sydney.au.emb-japan.go.jp/files/100246638.pdf

(以上)